



Data 2023-3

監督・脚本：ハン・ジェリム
 美術：イ・モクウオン
 出演：ソン・ガンホ/イ・ビョンホン
 ソン/チョン・ドヨン/キム・ナムギル/イム・シワン/キム・ソジン/パク・ヘジュン

👁️👁️ みどころ

戒厳令とは？非常事態宣言とは？それらは知っていても、航空機特有の“非常宣言”とは一体ナニ？コロナ禍の今、敢えてバイオテロをテーマとしたパニック超大作が韓国で公開！

上空の主役はイ・ビョンホン、地上の主役はソン・ガンホというW主演だから、スクリーン上は、両者の活躍をクロスさせながら、ハラハラドキドキの展開に！

ウイルス感染による機長の死亡、緊急着陸の拒否、さらに自衛隊機による威嚇射撃！これでは、KI501便は絶体絶命だ。

しかして、後半からクライマックスにかけての上空と地上におけるW主役の奮闘に注目！さまざまな疑問はあるものの、本作については、そんなものは無視し、両主役の奮闘に拍手！それにしても、こんなにうまく収まるとは！

—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————

■□■非常宣言とは？コロナ禍でもバイオテロがテーマに！■□■

本作のタイトル、『非常宣言』とは一体ナニ？コロナ禍の日本では、“非常事態宣言”とか“まん延防止等重点措置”とかの言葉が飛び交ったが、パンフレットによると、本作のタイトルにされている「非常宣言」とは「飛行中の航空機が燃料切れや災害などの危機的状況に直面し、正常な運航が不可能と判断された場合、操縦士は“非常宣言”を布告し、管制当局に緊急事態を通知する。これが布告された航空機には優先権が与えられ、ほかのどの航空機より先に緊急着陸できる。いかなる命令も排除できるため、これは航空運行における戒厳令の布告にも値する宣言である。」と解説されている。邦画には、日本の「2・26事件」を題材にした『戒厳令』（73年）という面白い映画があったし、1973年9月にチリで起きたクーデターを題材にした五木寛之の小説『戒厳令の夜』を映画化した『戒

厳令の夜』(80年)という面白い映画もあった。しかし、「非常宣言」が映画にされたのは、多分、本作がはじめてだろう。

航空機は潜水艦や列車と同じく密室だから、「密室モノは面白い」という私の持論が妥当するはず。しかし、航空機という密室の中でバイオテロが発生すると・・・？

1995年に東京の地下鉄車両内で起きた“地下鉄サリン事件”は日本国民を恐怖の真っ只中に引きずり込んだが、今朝、仁川空港を飛び立ったハワイ・ホノルル行きKI501便にバイオテロが仕掛けられ、死者が発生したことが機内に知れ渡ると・・・？

■韓国のパニック超大作は今やハリウッド越え！■

近時の邦画はくだらないものが多いが、韓国映画は元気がいっぱい！スケールの大きいパニック・スペクタクルは、『ポセイドン・アドベンチャー』(72年)のように、かつてハリウッドの専売特許だったが、『グエムル 漢江の怪物』(06年)、『シネマ11』220頁)や『ザ・タワー 超高層ビル大火災』(12年)、『シネマ31』169頁)等を見れば、今や韓国のそれはハリウッド越え！

本作のパンフレットには、江戸木純氏(映画評論家)のレビュー「韓国が世界に向けた《国際エンタテインメント工場》宣言」(14頁)があり、そこでは、そのタイトル通りの韓国映画の奮闘ぶりが書かれているので、これは必読！映画制作における絵コンテの重要性は、日本が世界に誇る巨匠、黒沢明監督の絵コンテの見事さを見ても明らかだが、本作ではパンフレットの「プロダクションノート」にある「最大限の効果を発揮した緻密なコンテとプリヴィズ」(20頁)も必読だ。ハン・ジェリム監督は6ヶ月も費やしてコンテ(ストーリーボード)を作成し、現場ではほぼ100%コンテ通り撮影したそうだ。そんなコンテに対し、プリヴィズとは映画『シン・ゴジラ』(16年)、『シネマ38』22頁)などでも積極的に使われた、完成画面を検討するための簡易CGアニメーションのことだが、本作においては、俳優たちが事前にシチュエーションを把握し、キャラクターへのさらなる没入と熱演を促すうえで大いに役立ったらしい。パンフレットには、本作の撮影時に用いられたストーリーボード(コンテ)の一部が掲載されているので、それを読み返しながら、あのシーン、このシーンを思い起こしたい。

さらに、パンフレットの「プロダクションノート」(22頁)には、「韓国映画初！360度回転式の飛行機内セット」があるので、これにも注目！本作で、奇しくも後半からジェヒョクが機長を務めることになるKI501便は、機齢30年に達する“ボーイング777”だが、本作の美術チームと特殊効果チームは直径7m、長さ12mのサイズで飛行機のセットを作ったらしい。そして、それは、巨大なローリングジンバル(回転台を搭載した電動スタビライザー)によって、360度回転が可能という、韓国映画初の試みというだけでなく、世界にも類を見ない独創的なセットらしい。『007』シリーズのド派手なセットは第3作の『007 ゴールドフィンガー』(64年)あたりから目立っていたが、本作のセットへのこだわりを見ても、まさに韓国のパニック映画におけるセットは、今やハ

リウッド越え！

■□■上空の主役と地上の主役がダブル主演！■□■

角川映画の巨編『天と地と』（90年）は、天才的な軍略の才で越後の国を統一し、甲斐の国の武田信玄と名勝負を繰り広げた上杉謙信を描いた、海音寺潮五郎の歴史小説『天と地と』を映画化したもの。したがって、そのタイトルには少し違和感があったが、本作はまさに上空の主役と地上の主役をダブルで起用したスペクタクル巨編だから、本作こそ『天と地と』のタイトルがピッタリ！

本作における上空の主役は、元パイロットのパク・ジェヒョク（イ・ビョンホン）。もともと、ジェヒョクが元パイロット、しかも元機長だったことが明かされるのは、KI501便内でパイオテロによって、機長が死亡し、副操縦士ヒヨンス（キム・ナムギル）がまき散らされた謎の殺人ウイルスによって少し体調がおかしくなってからだ。本作冒頭に見る幼い娘パク・スミン（キム・ボミン）と共にKI501便に乗り込もうとしているジェヒョクは、韓国の大スター、イ・ビョンホンが演じているにもかかわらず、フツウの男であるうえ、座席に座った後の彼の姿を見ると、飛行機が揺れるたびに怖がっている体たらく。どうやら、娘の付き添いでやっと飛行機に乗れているらしい。そんな頼りない男だが、出発ロビーで遭遇した怪しげな若い男、リュ・ジンソク（イム・シワン）が同じ便に搭乗しているのを発見すると、強い不安に襲われたのは当然だ。そのため、機内におけるジンソクの不審な行動に誰よりも早く気づいたジェヒョクは、かなり強引にジンソクに向かっていき、ジンソクの検挙に大手柄を上げたのは立派だ。しかし、その時はすでに機内にウイルスが充満・・・？

他方、地上の主役は刑事のク・イノ（ソン・ガンホ）だから、本作では韓国映画らしい2つの人間ドラマに注目！

■□■韓国映画らしい、2人の男たちの人間ドラマに注目！■□■

韓国における5年ごとの大統領選挙と、政権交代のたびに敗北した元大統領に訪れる“悲劇”を見ていると、韓国政治における人間ドラマの浮き沈みが日本政治以上に激しいことがよくわかる。韓国には“恨（ハン）”という言葉があるが、その意味は、日本の“恨み”以上に深い。その結果（？）、韓国映画に見る人間ドラマは、邦画に見る人間ドラマ以上に起伏に富んでいるので、本作でもそれに注目！

地上におけるク・イノ刑事の人間ドラマのスタートは、仕事一筋のイノを残して気楽に（？）ハワイ旅行に出かけた妻が、たまたまKI501便に乗っていたこと。パイオテロの犯行予告動画をアップしたという不審な男の目撃情報をもとに、腹ごなし（？）、暇つぶし（？）でリュ・ジンソクという男の住居を訪れたイノは、そこで殺人ウイルスが培養されたと思しき“実験室”と、その中にあるウイルスに感染した死体を発見したから、さあ大変。その死体の分析を進めていくと、あのパイオテロの予告動画はフェイクではなく、ホンモノ！しかも、その男ジンソクは殺人ウイルスを持ったまま、捜査線が敷かれているに

もかわらずそれをすり抜け、KI501便に乗り込み、飛行機はすでに離陸してしまったから、万事休すだ。犯人の目的は一体ナニ？妻の身に何か起きれば・・・？いや、そんな私的なことより、俺は刑事として最善の任務を遂行しなければ・・・。

他方、上空の主演パク・ジェヒョクに訪れるのは、ジンソクとの対決だ。機内のトイレに入ったジンソクの不審な動きをいち早く発見したジェヒョクは、チーフパーサーのヒジン（キム・ソジン）にそれを告げ、ジンソクの拘束を主張したが、こんな場合の機内の“危機管理マニュアル”は・・・？ジンソクに続いてトイレに入ろうとしたジェヒョクの娘、スミンが、「ごめん、急いでいるんだ」と言って割り込んできた男にトイレ（の優先権）を譲ったのは大正解！なぜなら、すでにトイレ内にはジンソクが殺人ウイルス（の粉末）を仕掛けていたから、それをたっぷり浴びてしまったその男は自席に戻ると間もなく七転八倒の苦しみで・・・。医者はいませんか？と叫びながら通路を走ったものの、そこで力尽きた男はバツリと・・・。そんな事態に機内が大パニックに陥ったのは当然だ。そんな機内で展開していく、重厚かつシリアスなジェヒョクの人間ドラマとは？

■□■第1の疑問—国土交通大臣が指揮？■□■

私が本作を見！と考えたのは、ソン・ガンホ、イ・ビョンホンのダブル主演の他、チョン・ドヨン扮する国土交通大臣のキム・スッキがKI501便機内で発生したバイオテロ対策の指揮をとるためだ。

日本の災害対策基本法では、①23条または23条2項に基づいて、地方自治体が地域防災計画の定めるところにより、首長を本部長に、関係都道府県および市町村の職員を本部員として設置する「災害対策本部」、②24条に基づいて、内閣総理大臣が「非常災害が発生した場合において、当該災害の規模その他の状況により当該災害に係る災害応急対策を推進するため特別の必要があると認めるとき」に、本部長を国務大臣として内閣府に臨時に設置する「非常災害対策本部」、③28条の2に基づいて、内閣総理大臣が「著しく異常かつ激甚な非常災害が発生した場合において、当該災害に係る災害応急対策を推進するため特別の必要があると認めるとき」に、閣議決定により、本部長を内閣総理大臣、副本部長を国務大臣として、内閣府に臨時に設置する「緊急災害対策本部」、がある（当該災害に対して既に非常災害対策本部が設置されている場合は非常災害対策本部は廃止され、緊急災害対策本部がその事務を継承する。）。

ところが本作を見ていると、バイオテロ発生 of 報を受けて緊急対策会議を召集し、その指揮をとるのは大統領ではなく、国土交通大臣だからアレレ・・・。本当にこれでいいの？本作に見る私の第1の疑問はそれだ。

■□■第2の疑問—非常宣言の効力は？■□■

第2の疑問は、本作のタイトルとされている「非常宣言」の効力がまったく見えないことだ。

本作ではバイオテロの犯人であるジンソクも、機長も意外に早く死んでしまうため、KI

501便が非常宣言を布告するのは、機長に代わって操縦していた副操縦士のヒヨンスが自分の体調悪化を自覚した時点になる。しかし、ハワイ（アメリカ）はウイルスで汚染されたKI501便の着陸を公然と拒否したから、アレレ。これでは非常宣言は何の意味もないのでは？さらに、やむなく韓国に引き返すについての燃料不足を心配したヒヨンスが今度は成田空港に着陸しようとしたところ、日本政府もアメリカと同じように着陸を拒否。それを無視して着陸しようとしたKI501便に対して、自衛隊の戦闘機が「日本の領空を侵犯した」として、「速やかに外に出るよう」威嚇射撃までしたから、ビックリ！ええっ、こんなことができるの？これでは非常宣言の意味は全くないのでは？

本作のパンフレットには、杉江弘氏（元日本航空機長／航空評論家）のコラム「元日本航空機長が語るパイオテロとの闘い」があり、そこでは専門的な目からいくつかの疑問点が語られているが、そんな説明を聞かずとも、本作の設定にはさまざまな疑問がある。それをハン・ジェリム監督がどう考えたのかは別途聞いてみたいものだが、本作ではあえてそんな疑問点は封印し、危機的な事態が続く中で次々と起きるさまざまな人間ドラマをしっかり楽しみたい。

■□■絶対絶命状態の中、ダブル主演がそれぞれ大奮闘！■□■

日本の自衛隊機が韓国の民間機に威嚇射撃。そんな事態が現実に関れば、いかに日米同盟と米韓同盟によって、中国と北朝鮮の脅威に対して日韓米の三国が共同で備えているとしても、そりゃ大問題。従軍慰安婦に対する補償問題レベルでは済まない、日韓の一大政治問題に発展するはずだ。

世界的パンデミックになったコロナ禍は、3年経ってもまだこれといった治療薬は実用化していない。新薬の開発や実用化には、膨大な時間が必要ということだ。すると、ジソクがまき散らした謎の殺人ウイルスに効く新薬は、いつ開発、実用化されるの？そのための治験には一体何人の協力が必要なの？犯人の逮捕には失敗したものの、犯人のアジトを発見したイノには新たにそんな任務が見えてきたが、そんな大それた任務を1人の刑事の力でやることができるの？しかし、それはそれ。そんな現実の問題は、現実の政治に委ね、映画制作はあくまで映画制作として、ハラハラ、ドキドキ、ワクワク、ドキドキのエンタメ路線を極めたい。本作後半からクライマックスにかけての展開を見ていると、それははっきり見えてくるので、本作ではそれに注目！

しかして、まずは上空。KI501便内では、感染者と未感染者を飛行機の前後に分離する対策が取られたが、そんな小手先の対策で感染問題が解決するはずはない。離陸早々死んでしまった機長に代わって、副操縦士のヒヨンスが頑張っていたが、彼も感染しているから限界は近い。すると、彼が亡くなった後の操縦桿は一体誰が握るの？そんなテーマに沿った上空のクライマックスでは、イ・ビョンホン扮するジェヒョクが大活躍するので、それに注目！他方、地上では？

本作後半からクライマックスにかけての地上では、前述した新たな任務に我が身の犠牲

を省みず邁進するイノの姿が見えるので、それに注目！

その他、本作後半からクライマックスにかけては、機内と地上との連絡に SNS が多用される姿が描かれるし、チョン・ドヨン扮する国土交通大臣が、おのれのクビをかけて“ある行動”を決断する姿も描かれるので、それにも注目！なるほど、バイオテロをテーマにした韓国のエンタメ作品は、ここまで盛りだくさん！

■□■ジェットスター・ジャパン501便に爆破予告が！■□■

ハプニングは色々なところで突然起きるもの。しかして、私が本作を鑑賞した1月7日の夕刊各紙には「爆破予告で緊急着陸」の見出しが踊った。その内容は、1月7日午前6時18分頃、成田空港のインフォメーションセンターに、英語で、成田発福岡行き格安航空会社(LCC)のジェットスター・ジャパン501便エアバスA320(乗客136人、乗員6人)を名指しして、「貨物室に100キロのプラスチック爆弾を仕掛けた」との趣旨の電話があったこと。爆破予告の電話を受けた機内では「爆弾が仕掛けられている可能性がある」とのアナウンスが響いたらしい。そのため、乗客に驚きが広がったのは当然だが、これはドラマではなく現実だった。

そのため、同機は午前7時41分、中部空港に緊急着陸し、愛知県警が調べた結果、爆発物のないことが確認できたらしい。千葉県警などは威力業務妨害容疑などで捜査を進めるが、136名の乗客全員が脱出シューターを利用した際、5人が捻挫や切り傷などの軽傷を負ったそうだから、何とも人騒がせなことだ。

もっとも、こちらは本作のような大パニックにならなかつたから、よかつた、よかつた。映画ならともかく、現実には何もないのが一番だ。

2023(令和5)年1月18日記